

ブライアン・ウィリアムズに学ぶ 水辺の写生～びわ湖を知ろう

認定NPO法人 びわ湖トラスト

実施日： 2018年8月26日（日）10:00～16:00

場所： 道の駅 びわ湖大橋米プラザ（大津市堅田）及び「はっけん号」船上

後援： 大津市教育委員会

協賛： 関西ティーイーケイ株式会社

参加者： 16組 36名（大人：16名・子供20名）（補助）8名

残暑も未だ厳しい夏の日差しの下 申し込み多数の中 抽選で選ばれた16組の親子が参加しました。冒頭に「びわ湖を知ろう」とのテーマにてNPO びわ湖トラストの理事でもあるブライアン・ウィリアムズ



先生が2017年10月に刊行した絵画とエッセイ集『びわ湖・ブライアンの目ーきれいをあしたへ』の中の絵の数々を見せながら、参加の親子に“びわ湖の現況とびわ湖の大切さ。45年前に来日し、比叡山延暦寺杉木立を抜けて見た青く、そしてどこまでも広がる琵琶湖に一目惚れし、定住したこと。そして現在の琵琶湖は多くの環境問題も抱えており、日本の宝である琵琶湖の保全再生は重要であること。”を熱い思いで語りました。



講話の後はブライアン先生の周りに参加者が集まり、まずは先生が日常使っているプロの道具やパレット・絵の具を実際に見せて頂きました。使い込んだ道具やパレットに、皆さん圧倒されていました。このあと ブライアン先生は実際に青空と琵琶湖の対岸・湖東の景色を皆さんの前で画用紙に書いて見せ、先生から写生をする上での留意点や作画ポイント（筆使い・水と絵の具の使い方・構図等）を教えてくださいました。

11時にはブライアン先生が日頃使っているプロ用水彩画用の画用紙を参加者に渡し、写生を始めました。暑いですが屋外の米プラザ2階のベランダに出て、参加者は自分が書きたい景色が見える場所に陣取り、写生を始めました。ブライアン先生及び美術教諭をされていた竹川??先生が参加者の所を順番に回り、参加者の横に座っては参加者と話し合いながら、自主性も尊重しながら助言をしていました。

保護者の方も子供さんの横で久しぶりの写生をされ、悪戦苦闘もしながらも絵を描く楽しさも感じておられました。昼食もはさんで14時半まで写生をベランダで続け、皆さんは作品を完成させました。15時には後片付けをして、コミュニティールーム「光彩」に再集合。前に椅子を並べ、その上にグループ毎に36完成作品を置きました。



並べられた絵についてブライアン先生が良い点を1枚ずつ講評し、また改善点もアドバイスしました。ひろこ先生も補足アドバイスをされていました。



今までは地上での写生会だけでしたが、今回はびわ湖トラストが保有する実験調査船「はっけん号」を運行し、乗船希望者は3組に分かれて米プラザ棧橋より乗船して頂きました。琵琶湖大橋を中心に南湖と北湖を45分ほどクルージングし、びわ湖湖上からの景色を見て頂きました。



何人かの参加者は船上に画用紙を持ち込み、船上での写生もしていました。

1回目のクルージングにはひろこ先生が、3回目はブライアン先生が同乗し、写生のアドバイスもしていました。併せて環境学習も兼ねて船上からの透明度調査（南湖と北湖での透明度の違いを実感）をする予定でしたが、23日に来た台風20号風雨の影響にて濁りが出ていたので、優位差がわかりにくく残念ながら中止となりました。しかし船の上から琵琶湖や比良山他の山々を見るのは初めての参加者も多く、又日ごろ車で通っている琵琶湖大橋の下面を船から見る事が出来、喜んで頂けたのは良かったです。滋賀県民にとって日ごろ見慣れている琵琶湖の素晴らしさを再認識する機会ともなりました。

閉会の直前にはブライアン先生から冒頭での写生講習にて先生が書いた絵は参加生徒にあげますとのことで、先生と「じゃんけん競争」をし、最後に残った勝者が受け取りました。

参加者・保護者とも自分の作品を完成させた喜びを味わい、また写生の楽しさを実感して15時半には閉会となりました。

この度の「ブライアン・ウィリアムズに学ぶ 水辺の写生」開催にあたり助成頂いた関西ティーイーケイ株式会社に感謝致します。

また忙しい中 視察に尾藤関西TEK社長にもご来駕頂き、感謝致します。

本当に有り難う御座いました。



(完)